

2025 (令和 7) 年 4 月 20 日

Japanisch-Deutsche Gesellschaft Nara (JDG-Nara)

奈良日独協会 (会長: 河野良文) 〒630-8133 奈良市大安寺 2-18-1 大安寺内

Tel/0742(61)6312 Fax/0742(61)0473

<https://www.daianji.or.jp/jdgn>

編集: 中祢 勝美 (nakane31513@gmail.com)

●行事報告

1. 恒例のクリスマス会開催 Frohe Weihnachten!



恒例のクリスマス会を、12月8日(日)17:30から、今回は「野菜ダイニング菜宴」にて開催しました。メラニー・ザクシンガー (Melanie Saxinger) 総領事ご一家及び奈良女子大・奈良教育大のドイツ人留学生4名を含む、合計37名の方が参加されました。

岡田由美子理事司会の下で、河野良文会長のご挨拶があり、ザクシンガー総領事がドイツ語で乾杯の音頭をとり、会が始まりました。日本語への通訳は、マーチャーシュ・クーセギ

(M. Köszegi) 会員にその労をとっていただきました。終始和気あいあいと和やかな雰囲気、参加された皆様は、あちらのテーブル、こちらのテーブルで笑い声が絶えませんでした。参加した会員の何人かから、奈良日独協会への思いなどを話していただきました。また、岡田理事のリードで、全員でクリスマスにふさわしい歌の大合唱で、大いに盛り上がりました。

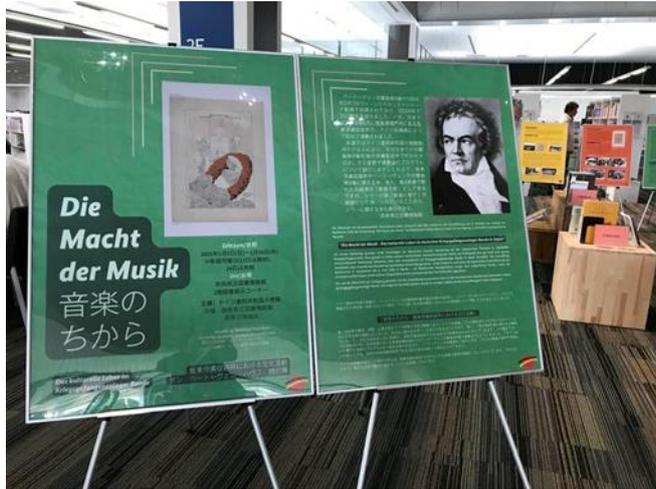
さらに、中祢勝美理事から「能登半島地震復興募金」の説明があり、参加者皆様から温かい募金協力を得ました。17,610円の募金が集まり、後日中祢理事が「日赤令和6年9月能登半島大雨災害義援金」として郵便局で振り込まれたそうです。最後に店の前で集合写真を撮り、名残惜しい中、無事お開きとなりました。



Saxinger 総領事と河野会長

(クリスマス会担当理事: 隅田 憲孝)

2. 奈良日独協会共催：パネル展「音楽のちから 板東俘虜収容所における文化活動」関連図書展示会開催



ベートーヴェンの「第九」（交響曲第9番）の初演 200周年を記念する巡回パネル展が奈良県立図書情報館で開催されました（期間は2025（令和7）年1月5日（日）から1月30日（木）まで）。

主催はドイツ大使館、共催は奈良県立図書情報館と奈良日独協会。展示会開催に向けたパネル設置準備作業には、当協会の林保之顧問、加藤禎孝副会長ら4人が参加しました。

日本での第九初演は1918年に徳島県の板東俘虜収容所でドイツ兵捕虜によって行われました。ドイツ大使館が制作したパネルには、ド

イツでの初演時の背景だけでなく、日本初演当時の演奏会やプログラムについても解説されていました。奈良県立図書情報館も今回のパネル展に合わせて、同館が所蔵する、収容所や交響曲第9番「合唱付き」に関する書籍、シラーの詩「歓喜に寄す」に関連する資料を展示し、来館者の関心を集めていました。

3. 第13回ドイツ料理教室 実施報告

奈良日独協会主催のドイツ料理教室を、12月15日（日）に奈良市生涯学習センターにおいて開催しました。講師の土井ギーゼラ会員及び土井通靖会員にご指導頂きました。今回は、締切日を待たずに定員（15名）に達し、多くの方々に参加いただきました。係として、初めてのことで嬉しく思っています。この中には、奈良女子大生、ドイツから同大学留学中の学生、及び生涯学習センターのチラシを見て参加された方も含まれています。参加者から、お菓子や、キャンディを入れた折り紙サンタクロスで飾られた可愛いお菓子入れのプレゼントがありました。

当日の調理メニューは、Christstollen（ドイツのクリスマス・シュトレン）及びレープクーヘン（アーモンドクッキー（マカロン風）に変更）でした。各料理の所要時間を考慮して、後者を先に手掛けて、焼いている間に、Christstollenの準備にかかりました。講師に、「こねる、どれくらい？」、「まぜる、どれくらい？」など質問が行き交い、直におそわりました。Stollenを焼いている間に、アーモンドクッキー及び参加者から提供されたバニレキプフェル（Vanillekipferl）を頂きながら懇談で盛り上がりました。試食を通して、一緒に食べるとさらに親近感が増しました。焼きあがったStollenは、味がしみこむ期間として7日間から10日間ほど置いておくように説明を受け無事終了しました。その期間を過ぎてからいただきましたが、やはり良い材料で丁寧に手作りされたものはおいしかったです。



参加いただきました皆さま、ありがとうございました。次回は、6月28日（土）に実施する予定です。（料理教室担当理事：松本 俊郎）

4. 能登半島地震復興応援ドキュメンタリー映画上映会 実施報告

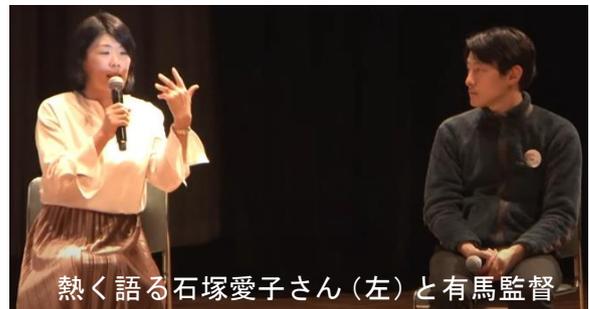
2025年3月2日(日)、「天理でつながる！能登半島、助け愛プロジェクト・映画上映会」が天理市民会館で開催されました。主催したのは、関西に在住する珠洲市及び能登町(旧珠洲郡内浦町)出身者らでつくる関西珠洲会。幼少期を珠洲市大谷町で過ごし、令和6年能登半島地震以降、同会で活動するようになった私が企画しました。関西珠洲会はもとより多方面からご協力いただいたおかげで、来場者が400名を超える盛況のイベントとなりました。奈良日独協会としての行事ではなかったのですが、多くの会員がご来場下さいました。なかでも河野会長には、「南都大安寺」のみならず、奈良の名刹が名を連ねる「大和路秀麗八十八面観音巡礼会」の後援名義を使用させていただくなど、心強いお力添えをいただきました。その会長からご了承いただきましたので、感謝を込めて報告致します。

上映したのは、令和5年5月に発生した地震(最大震度6強)のあと、若い映像作家・有馬尚史さんが珠洲市で撮影したドキュメンタリー映画：『凧が灯るころ ～奥能登、珠洲の記憶～』(87分)。祭りを成功させることで新型コロナや度重なる地震からなんとか町を復興させたい、そんな地域住民の奮闘や葛藤を描いた貴重な作品で、**奈良県では初めて**の上映となりました。

映画上映に先立ち、私が勤務する天理大学の雅楽部の皆さんにオープニングを飾っていただきました。同部は2024年9月、甚大な被害をもたらした奥能登豪雨の僅か数日前(!)に、特別養護老人ホーム「長寿園」など珠洲市内の3か所で慰問公演を行いました。同部には珠洲生まれの矢田美歩さん(4年生)も在籍しており、こうしたご縁から、今回、友情出演がかないました。感謝です。

映画上映後の第2部は、馬縹(まつなぎ)キリコ太鼓保存会の皆さんによる勇壮な太鼓演奏でスタート。太鼓は地震で損傷しましたが、国内外から(公財)日本太鼓財団に寄せられた寄付によって新調された太鼓を遠路馬縹町から持参し、感謝を込めてカー杯演奏。客席からも「ヤッサー、ヤッサー」の掛け声と温かい手拍子が沸き起こり、会場がひとつになりました。

最後のトークイベントでは、有馬監督、馬縹キリコ太鼓のメンバー、珠洲から大阪に二次避難しておられる鶴島善博さん、珠洲市で創業112年を迎えた老舗和洋菓子店「メルヘン日進堂」の石塚愛子さんが登壇し、



熱く語る石塚愛子さん(左)と有馬監督



それぞれの立場から、経験した地震の被害や発災直後の行動、遅れている復興の現状、能登の人々にとって祭りがもっている意味などを熱く語っていただきました。今回のイベントは、奈良テレビのニュースでも紹介されましたので、左のQRコードからご視聴下さい。

メルヘン日進堂の看板商品は、日本人が大好きなバウムクーヘン。2024年6月、「バウムクーヘン博覧会」の実行委員を務める(株)ユーハイムの藤本浩二さんが珠洲の店舗まで復興義援金を届けに来られました。二度の大震災(1923年に横浜で、1995年に神戸で)を経験している同社を中心に、バウムクーヘン業界全体で能登半島の被災地を支援する輪が広がっています。

「輪」と言えば、大阪万博におけるドイツパビリオンのテーマが「わ!ドイツ」です。実は、メルヘン日進堂にも先代が創作した「和・〇・話」(わ・わ・わ)という名のバウムクーヘンがあり、石塚さんは本場ドイツで「バウムクーヘン博覧会」を開催することを夢見ておられます。私もそのお手伝いのできれば、そしてこの映画をドイツでも上映できればと願い、ザクシンガー総領事に後援名義の使用を申請したところ、寛大にも認めて下さいました。そのご恩に報いる意味でも、今回のような奥能登満載のイベントをドイツでもぜひ実現したいと思い、情報収集を始めたところです。

(理事・事務局：中祢 勝美)

●会員だより

1. 新入会員紹介 / 藤本 明希子さん（奈良県立図書情報館）

大学生の頃、第二言語でドイツ語を履修していました。授業での思い出はミヒャエル・エンデの『モモ』をドイツ語で読んだこと、先生に借りた Die Prinzen の CD(「Küssen verboten」が好きです)。あまり真面目な学生ではなかったので、大学卒業以来ドイツについて意識することなく過ごしてきましたが、仕事でドイツ語をはじめ外国語に触れる機会が何度かあり、改めて日本以外の世界にも目を向けたいと思い、入会させていただきました。

最近触れた“ドイツ”は、展覧会「アイデンティティシステム 1945 年以降 西ドイツのリブランディング」です。京都 ddd ガラリーにて 2024 年 10 月 24 日から翌年 1 月 13 日まで開催されており、美術館勤務の友人とともに気付いたことを語らいながら見て回りました。ルフトハンザ航空や 1972 年のミュンヘンオリンピックでのメインビジュアルおよびピクトグラム、その他さまざまな企業や組織のデザインを、コンセプト・スケッチや印刷サンプルといった貴重な一次資料も含めて直接見ることができ、大変楽しい時間を過ごしました。この展示がきっかけで 20 世紀を代表するグラフィックデザイナー、タイポグラファーであるオトル・アイヒャーを知り、デザインやピクトグラム、またその背骨になる「思想」について、思いめぐらせるようになりました。



新しいことを知ることはとても面白いです。普段は本やインターネット、展覧会といったいわゆるメディアを通じて何かを知ることが多いのですが、上記展覧会を見て回った際、友人の美術の専門家だからこそその視点での感想や意見を聞いて、人との交流だからこそ生まれる気付き、楽しみがあることを実感しました。デザインにとどまらず食や文学、歴史、自然など幅広くドイツについて、みなさまとの交流を通じて理解を深めていければと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

2. 会員異動

- ・藤本明希子さん（奈良県立図書情報館勤務）の入会が 2 月理事会で承認されました。
- ・中山俊子さん、山本雅昭さんの退会が 2 月理事会で報告されました。また、中山伸さんの逝去が報告されました。

●今後の予定

- ・4 月 25 日(金)に全国日独協会連合会年次総会が東京で開催されます。当協会からは水野恵理子理事に出席していただきます。
- ・6 月 8 日(日) 午後、奈良日独協会の 2025(令和 7) 年度総会を開催します。5 月半ばに総会資料を郵送しますので出席下さいますようお願い致します。また、欠席される場合は必ず委任状を提出して下さい。
- ・6 月 28 日(土)に、第 14 回ドイツ料理教室を開催する予定です。